

3節 国際放送

国際放送は、世界の人々の日本に対する理解を深め、国際的な文化・経済交流の発展を促し、ひいては国際親善と人類の福祉に貢献することを目的としている。

テレビ国際放送（NHKワールドTV）は、95年4月から、北米、欧州向けに開始した。98年4月からは、デジタル化によって、アジア・太平洋地域にも日本語、英語で1日18時間の放送を開始し、10月からは、ほぼ全世界向けに拡大した。

さらに、99年4月からは、1日の放送時間を19時間とし、10月からは24時間放送を開始した。

01年8月には、送信衛星を変更して、それまで受信できなかったアフリカ南部地域でも視聴が可能となり、NHKワールドTVは世界中をカバーすることになった。08年10月に外国人向け放送のNHKワールドTVは、英語化率100%を達成した。また、邦人向け放送はNHKワールド・プレミアムチャンネルを活用して、国内放送のニュース・情報番組に加え、娯楽を供する番組など、より多彩な番組編成を実現し、ノンスクランブルでの新しい放送を開始した。さらに、09年2月に番組改定を行い、NHKワールドTVでは、英語ニュースを大幅に拡充し、国際放送局に新しく作ったニュース専用スタジオから24時間毎正時に編成するとともに、日本やアジアの情報を伝えるさまざまな番組についても、世界各地の好適視聴時間帯を強く意識した編成を実現した。09年4月より外国人向けテレビ国際放送の充実のために、新たに設立した日本国際放送（JIB）と連携して、日本の魅力を伝えた。インターネットでは、24時間動画配信を開始し、ニュースと国際放送局制作番組を放送と同時に配信している。

テレビ国際放送は、11年3月末現在、1億3,655万世帯が受信可能である。

短波によるラジオ国際放送（NHKワールド ラジオ日本）は、35年に海外放送として開始した。戦後に一時中断、52年に国際放送として再開した。

日本語と英語で放送する「全世界向け放送」（ジェネラル・サービス、一般向け放送）と、地域ごとの言語で放送する「世界各地域向け放送」（リージョナル・サービス）と合わせて、07年度前半期は22言語で、1日65時間放送した。海外発信が欧米を中心にラジオ短波放送からテレビにシフトしていくのに伴い、07年度後半期には、短波放送の送信地域と送信時間を見直し、「全世界向

け放送」を廃止して、地域に応じた効率的な情報発信を進めた。また、ドイツ語、イタリア語など4言語を廃止し、18言語に縮小した。一方、短波放送以外の新たな放送サービスとして、衛星を使用したラジオ国際放送を開始した。欧州および中東に向けて06年度後半期より1日30分、08年度からは1日60分の放送をアラビア語で行うとともに、10年度は全地域向けに日本語・英語など13言語で1日5時間放送している。さらに中波・FM波による放送サービスも拡充し、5言語で1日2時間30分実施している。国際理解の促進を図るとともに放送番組を補完する観点から、インターネットにより国際放送のニュース等の提供も積極的に行っている。

放送番組の編成

国際放送番組の編成は、年度ごとに「編集の基本計画」で編成方針、重点事項など基本事項を定める。この基本計画に基づき「放送番組編成計画」を策定し、新番組の概要、編成時間などの具体的な計画事項や、放送番組時刻表を定めている。

国際放送番組審議会は、「基本計画」の諮問に対して答申するなど、放送番組の適正を図るため必要な事項を審議し、番組の編成や制作に役立てることを目的としている。

I. 国際放送の放送番組編集の基本計画

海外の視聴者からの投書、番組内容についてのモニターや短波の受信状況についての技術モニターの報告、各種の調査などを参考にしつつ、新年度（10年度）の番組提案を基に新年度の番組編成を検討し、「平成22年度国際放送（テレビジョン・ラジオ）の放送番組編集の基本計画」の原案を策定した。原案は12月中旬の国際放送番組審議会に諮問し、了承するとの答申を受け、1月中旬の経営委員会で議決承認された。

以下に原文どおり掲げるが、西暦で統一したほか、記号などは本書の方式に合わせた。

1. 国際放送番組編集の基本的な考え方

NHKの国際放送は、10年6月、放送開始75年を迎えます。

10年度の国際放送番組（テレビジョン・ラジオ）の編集にあたっては、09年2月に本格的に始まった英語による外国人向けテレビ国際放送のさらなる充実を図ります。

外国人向けのテレビ国際放送では、世界の視聴者から信頼され、選んでもらえるチャンネルを目指し、特色あるコンテンツづくりを進めるため日本・アジアの情報発信をさらに強化します。

24時間の英語ニュースは、日本やアジア各地にひろがるNHKのネットワークを活用し、現地発の現場感覚あふれるレポートを積極的に出していきます。緊急報道の体制も整えます。

英語番組は、日本・アジアの政治、経済、伝統文化、紀行、ライフスタイル、ポップカルチャーなど多彩な情報を発信します。地域放送局や一般放送事業者の優れた番組を英語化し、多角的に日本の姿を伝えます。

また、国際放送のニュース・情報波としては世界初となるハイビジョン放送により、鮮明な画像を届けます。

さらに各地域の衛星放送やケーブルテレビなどを利用し、受信可能世帯の拡大に努めます。世界各地で実施している視聴実態調査の一層の充実を図るなど視聴者の多様なニーズを的確にとらえ、番組制作・編成に生かしていきます。

邦人向けのテレビ国際放送では、NHKワールドプレミアムを通じ、日本語ニュースや情報番組などを放送します。また、大規模自然災害や重大事件が発生した場合には、在外邦人、日本人旅行者に迅速かつ的確に情報を提供し、ライフラインとしての役割を果たします。

外国人向けラジオ国際放送では、短波だけでなく、衛星ラジオや中波・FM波での再送信などを通じて、効率のかつ効果的に世界に届けます。邦人向けラジオ国際放送では、国内外の最新情報をリアルタイムで提供します。

インターネットでは、ニュース・番組のストリーミング配信をさらに充実させると同時に、携帯端末への配信なども含めた、国際放送ならではの3-Screens展開を図ります。

さまざまなメディアによる情報が世界を駆け巡るなかで、NHKは、客観的で信頼できる情報を日本やアジアの視点で発信し、国際社会における相互理解の促進に努めます。

2. 編集重点事項と各波の編集方針

(1) テレビジョン国際放送

〔外国人向けサービス〕

10年度改定においては、日本・アジアの情報発信をさらに強化します。また、世界各地で行っている視聴実態調査等に基づいて番組の改廃を行うなど、視聴者の関心に応える柔軟な番組編成の実

現を目指します。

①英語ニュースのさらなる充実

24時間毎正時に放送している英語ニュースのさらなる充実を図り、視聴者の期待に応えます。

・日本やアジア各地に広がるNHKのネットワークをフルに活用し、“世界への発信力”を一段と強化します。

・香港やシンガポール、ニューヨークなど世界各地の金融センターと結び、最新の経済情報をリアルタイムで伝えます。また、経済成長を続ける中国を重点的に取材し、現地からレポートします。

・さまざまなジャンルを網羅した特集やインタビューなど多彩な企画で、視聴者の多様なニーズに応えます。また、大地震など緊急時には特設ニュースを編成するなど、迅速かつ柔軟に対応します。

②多彩な番組ラインナップの実現

10年度も、毎日4時間の基本編成を世界各地のプライムタイムにあわせて放送する、NHKワールド独自の編成手法を継続します。また、知識層や若者をターゲットにした番組を開発し、視聴者層の拡大を目指します。

・アジア各国の有識者やジャーナリストたちによる討論や、アジアのキーパーソンに聞くインタビュー番組を、視聴者からの要望に応じてウィークリー化し、日本やアジアの声を世界に発信します。

・米国に次ぐ世界第2位の経済大国となることが確実となった中国。変わる中国と、変わらない中国、その両面を浮き彫りにする番組を新設します。

・視聴者の関心に応える番組開発を行うためにトライアル枠を週1枠設け、局内外から広く企画を募り、多様な番組ジャンルや演出手法を模索します。また、平城遷都1300年を記念した番組なども編成します。

・手作りの暮らしを詩的映像で綴るエコライフ番組を新たに英語化して放送します。また、地域放送局や一般放送事業者が制作した番組の英語による海外発信にも努めます。

③ハイビジョン放送の普及

・ハイビジョンチャンネルの受信環境整備をさらに推し進め、ハイビジョン放送ならではの鮮明で迫力のある映像を通じて、日本やアジアの「今」をビビッドに伝えます。

◇テレビジョン国際放送番組の放送時間と部門別編成比率

〔放送時間〕

世界全域……………1日23時間程度が基本

〔部門別編成比率〕

定時放送において、報道番組60%以上、インフ

ォメーション番組と合わせて90%以上を編成。

〔邦人向けサービス〕

①ニュース・情報番組の国内同時放送

1日およそ5時間、主要ニュースや情報番組を国内と同時に放送します。在外邦人からの要望に応え、新たに子ども向け番組を新設するとともに、情報番組をさらに充実させます。

②緊急時の迅速かつ的確な情報の提供

大規模な自然災害など、緊急事態が発生した場合には、特設ニュースなどを迅速に編成し、海外に暮らす日本人や日本人旅行者への的確な情報提供に努めます。

◇テレビジョン国際放送番組の放送時間と部門別編成比率

〔放送時間〕

世界全域……………1日およそ5時間

北米・欧州地域では地域衛星を使用して、各1日およそ5時間の放送を実施。

〔部門別編成比率〕

定時放送において、報道番組60%以上、インフォメーション番組と合わせて90%以上。娯楽番組を若干編成。

(2) ラジオ国際放送

〔外国人向けサービス〕

○多言語ニュースの強化

中国語、朝鮮語、ロシア語など10言語でニュース枠を拡大し、重要なニュースには解説や識者のコメントなどを加えて、より深く分かりやすく伝えます。

○地域の実情に応じた多様な放送サービスの推進

衛星ラジオ、中波やFM波を利用してのリブロードキャスト、インターネットなど、対象地域に適した多様なメディアの活用を進めるとともに、地域の実情に応じた放送時間や回数の見直しを行い、放送サービスの充実を図ります。

○国際放送開始75年関連番組の編成

国際放送開始75年（10年6月1日）に当たり、6月を中心に「NHKワールド」の存在感を高める特集番組を集中編成します。

◇ラジオ国際放送番組の放送時間と部門別編成比率

〔放送時間〕（1日あたり）

17言語・合計……………31時間20分
（短波26時間50分、衛星ラジオ2時間、中波・FM2時間30分）

〔部門別編成比率〕

定時放送において、報道番組60%以上、インフォメーション番組25%以上を編成。

〔邦人向けサービス〕

○日本語放送の24時間化

衛星放送サービスを拡大し、日本語の放送サービスを24時間化します。

○国内外の最新情報をリアルタイムで提供

国内で放送する主要ニュース、時事番組、スポーツ中継、音楽番組、ラジオドラマなど、多彩な番組を国内と同時に放送し、リアルタイムで国内外の最新情報を伝えます。

◇ラジオ国際放送番組の放送時間と部門別編成比率

〔放送時間〕（1日あたり）

日本語……………24時間

（短波20時間、衛星ラジオ4時間）

〔部門別編成比率〕

定時放送において、報道番組60%以上、インフォメーション番組25%以上、娯楽番組を若干編成します。

3. インターネット

○3-Screens展開のさらなる推進・強化

インターネットでは、テレビコンテンツのニュース・番組のストリーミング配信をさらに充実させると同時に、携帯端末への配信などを含めた、国際放送ならではの3-Screensを展開し、ユーザーの利便性の向上を図ります。

・新しいウェブサイト更新システムを導入し、より迅速で多彩なコンテンツを提供します。

・ライブストリーミング配信は、現行のワールドTVの英語ニュースや英語番組に加えて、さらに多くの番組を配信します。

・ラジオの多言語ニュースの携帯端末への音声配信およびニューステキストの配信を充実・強化します。

4. テレビ・ラジオ・インターネット共通項目

○参議院議員通常選挙関連放送の実施

第22回参議院議員通常選挙（10年7月25日任期満了）に当たっては、選挙報道および在外選挙関連放送の実施に万全を期します。

○アジア・太平洋地域の放送機関との連携強化

10年10月に、アジア・太平洋放送連合（ABU）の総会が、8年ぶりに日本で開催されるのを機に、加盟各放送機関との連携をさらに強化し、素材交換などを通じて、アジアのさまざまな情報を発信します。

II. 国際放送番組審議会

10年度は10回開催された。会長の諮問に応じて、「平成23年度国際放送（テレビジョン・ラジオ）の放送番組編集の基本計画（案）」について審議し答申したほか、定時番組、特集番組などについても審議し、放送番組の適正化を図った。

10年度の主な審議内容は次のとおり。

- 4月 テレビ『China Wow! Yellow Field of Dream』について
- 5月 テレビ『A is Asia』について
- 6月 テレビ「NEWSLINE/JAPAN 7 DAYS 特集シリーズ『核のない世界をめざして』」について
- 7月 「ワシントンDC・香港視聴者実態調査報告」について
テレビ『Forbidden Kyoto～A Geisha is Born』について
- 9月 「平成23年度後半期の番組編成」について
テレビ『NEWSLINE ELECTION SPECIAL-UPPER HOUSE ELECTION 2010』について
- 10月 「NHKワールドラジオ日本」について
ラジオ夏期特別番組について
- 11月 「平成23年度国際放送（テレビジョン・ラジオ）の放送番組編集の基本計画（案）」について（説明）
テレビ『TV Revolution The Era of broadcast / Web Convergence』について
- 12月 「平成23年度国際放送（テレビジョン・ラジオ）の放送番組編集の基本計画（案）」について（諮問・答申）
- 1月 「平成23年度国際放送（テレビジョン・ラジオ）の放送番組編成計画」について
テレビ「国連事務総長 広島・長崎訪問」関連報道について
テレビ『AMAZING ARTS OF JAPAN “Searching for PARADISE”』について
- 2月 国際放送の変遷について
テレビ『ASIAN VOICES One on One “Japan 2011: Innovation Revolution?”』について
- 3月 東日本大震災のため休止

番組解説

I. テレビジョン国際放送

(1) 外国人向け放送

24時間毎正時の英語ニュース『NEWSLINE』では、NHKのネットワークを生かして取材体制を強化、参議院選挙やAPEC首脳会議、朝鮮半島情勢や中東・北アフリカの民主化運動などについて重点的に報道した。

定時番組では、国際放送独自制作の番組として、『China Wow!』や『ASIAN VOICES PLUS』等を、国内放送番組を英語化した番組として、『猫のしっぽカエルの手』や『プロフェッショナル』などを新設した。

特集番組では、地域局制作番組を英語化した『Hometown Stories』、コンクール受賞歴のある民放制作番組を英語化した『BROADCASTERS' EYE』、核・平和関連の『Never to be Forgotten』、視聴者リクエスト企画の『VIEWERS' CHOICE』などの各シリーズを編成した。

このほか、日本の武道を紹介する『SAMURAI SPIRIT』や京都の伝統文化を紹介する『Forbidden Kyoto』などを放送した。

3月11日に発生した東日本大震災においては、地震発生直後から4月1日まで全時間、『NEWSLINE』もしくは震災関連番組を放送し、4月2～10日の期間も、震災関連の『NHKスペシャル』を英語の同時通訳で放送したり、国内の主要ニュースの副音声の主音声に反転して同時放送するなど特別編成を続け、地震・津波による甚大な被害や原発事故などの詳細な状況を世界に向けて発信した。

(2) 邦人向け放送

1日およそ5時間『NHKニュースおはよう日本』『NHKニュース7』『ニュースウオッチ9』『クローズアップ現代』などの報道番組に加え、『NHKのど自慢』『金曜バラエティー』などの娯楽番組を国内と同時に放送した。7月『参議院開票速報』を国内と同時に放送した。3月11日に発生した東日本大震災においては、地震の発生直後から3月20日まで、ほぼ全時間、総合テレビを同時放送した。

『ASIA BIZ FORECAST』

T国際 月 23:00～23:58ほか
第1回09.10.5 / 1週間のアジアの経済ニュースをせき止め、今後の動きを展望する番組。注目さ

れるニュースをテーマごとにまとめた「Main Issue」、底流の動きを専門家の分析を加えて掘り下げる「Focus」、香港・ソウルのスタジオと結び日中韓の最新情報を伝える「イーストアジアレポート」、話題のニュースを人々の暮らしの目線で伝える「One More」のコーナーなどがある。／キャスター：Shery Ahn／国際放送局，GMS

『ASIAN VOICES PLUS』 新

T国際 毎月1回程度 土 11:10～11:38

㊤土 15:10～15:38, 19:10～19:38

22:10～22:38

日 2:10～2:38, 7:10～7:38

第1回10.4.10／アジアを語る当事者の声，アジアを見る識者の眼，アジアから発信するメッセージを伝える番組。アジアや日本の著名人や有識者，指導的人物への28分のインタビューを基本形式とする。11年1月に出井伸之元ソニー会長に日本の再生の課題を聞き，3月には道傳解説委員がスリンASEAN事務局長に東南アジアのさまざまな課題とASEANの進む道筋を聞いた。インタビュー番組のほかにも，日米安保や北朝鮮問題，生物資源の配分問題などについて討論する内容のものを放送している。10年度はこうした『ASIAN VOICES』特別版を含めて10回放送。また，湾岸諸国の経済，グローバルヘルスなどをテーマに，イギリスやドバイなどに出張取材したインタビューを日本のスタジオでゲストと共に深めるなど，柔軟な演出形式のものも放送している。機動性を高めることや語り手を立てる工夫を重ねることで『ASIAN VOICES』とは一味違う番組としている。／国際放送局

『imagine-nation』

T国際 水 8:30～8:58ほか

第1回08.4.1／世界で話題の日本のコミック・アニメ・ゲームの最新のトピックや製作現場の密着取材などを盛り込んだ情報満載の番組。毎回旬のクリエイターのインタビューも紹介するなど，世界に誇る日本のカルチャーを海外に発信した。10年度はコンピューターが作り上げたバーチャルキャラクター「初音ミク」を取り上げ，世界中から多くの反響が寄せられた。／国際放送局，NEP

『JAPAN BIZ CAST』

T国際 木 8:30～8:58ほか

DE2 日 10:00～10:28

第1回06.10.2／世界が注目する日本の経済・ビジネス情報を独特の切り口で伝える番組。「On Site」のコーナーではコンベンションセンターな

どを舞台に行われるさまざまな業界の展示会を通して，新製品や市場の最新動向を伝えた。「Gadgets」では日本ならではの気の利いた小物やアイデア商品の数々を紹介。「Special Report」では日本の優れた技術やヒット商品の開発ストーリーに迫った。／国際放送局，GMS

『Your Japanese Kitchen』

T国際 木 9:30～9:58ほか

DE2 日 11:00～11:28

第1回07.4.2／和食が世界で注目されている。日本の食文化に興味を持ち和食を作りたいと考える外国人をターゲットに，英語で和食の作り方を教えるテレビシリーズ。講師にはカリスマ主婦として知られ，料理本のアカデミー賞といわれるグルマン世界料理本大賞を受賞した栗原はるみさんを起用。毎回多彩な外国人ゲストも登場し，体験型解説で外国人にも分かりやすい内容とした。11年1月には，特色ある食材の宝庫・沖縄で収録。地元の食材を使った日本の家庭料理を4回シリーズで紹介した。／国際放送局，NED

II. ラジオ国際放送

10年度の外国人向け放送の放送時間は，17言語合わせて，1日当たり31時間21分。邦人向け日本語放送の放送時間は，1日当たり24時間。外国人向け放送と邦人向け放送を合わせると，18言語で，1日延べ55時間21分の放送を実施している。

(1) 外国人向け放送

外国人向け放送では，中国語，朝鮮語，ロシア語，タイ語，ベトナム語，ビルマ語，フランス語，ペルシャ語，アラビア語，スワヒリ語の10言語でニュース枠を拡大した。また，英語，中国語，朝鮮語，インドネシア語，ベンガル語，ペルシャ語，スワヒリ語は，現地の聴取好適時間に合わせて放送時間や放送回数を見直しを行った。さらに，衛星ラジオによる放送サービスを拡充し，ペルシャ語，フランス語，スワヒリ語を加えて13言語で，全地域向けの衛星ラジオ放送を実施した。ベンガル語は南西アジア向けのFM波による放送を45分増やしたほか，ペルシャ語は中東・北アフリカ向けに短波との同時放送でFM波による放送サービスを新たに実施した。

日本の政治動向（鳩山首相辞任，菅内閣発足，参議院選挙，民主党代表選挙など）や，COP10名古屋会議，APEC横浜会議，中東地域での民主化運動など内外の重要ニュースでは，各言語で正確かつ迅速な報道に努めた。3月11日に発生した

東日本大震災では、地震発生当日から緊急対応をとり、翌日から4日間にわたり全言語でニュース枠を拡大するなどして最新情報を伝えた。また、3月14～18日には八俣送信所周辺の計画停電による影響を避けるため朝鮮語放送の臨時送信を行った。

『ラジオジャパンフォーカス』枠内では、日本料理を紹介する「日本料理を作りましょう」、旅先としての日本各地の魅力を伝える「Welcome to Amazing Japan」、終戦記念日に合わせたシリーズ「戦争と人間」などの企画を放送した。また、リスナーとの交流を目指す「World Interactive」をラジオ第2と同時放送したほか、国際放送開始75年関連の企画として、リスナーからラジオ日本へ愛着や期待を表す絵画や文章などの作品を募集、3人を日本に招き特別リポーターとして番組制作を行った。

(2) 邦人向け放送

邦人向け放送においては、衛星放送サービスを拡大し、日本語放送を24時間化した。国際放送局が制作する日本語ニュースや海外安全情報に加え、国内の主要ニュース、時事番組、スポーツ中継、音楽番組、ラジオドラマなど、多彩な番組を国内と同時放送し、リアルタイムで国内外の最新情報を伝えた。東日本大震災発生時は、1週間にわたりR1の同時放送を中心にほぼ全時間地震情報を伝えた。このほか『ラジオ深夜便』『地球ラジオ』などの番組や『プロ野球』『大相撲中継』『真打ち競演』『浪曲十八番』『上方演芸会』『NHKのど自慢』『第61回NHK紅白歌合戦』などをラジオ第1との同時放送及び時差放送で行った。また特集番組として『星空のファンタジー』を制作し、ラジオ第2でも放送した。

『新春スペシャル 星空のファンタジー』(60分間)

国内(R2)は1月1日に、国際放送では27、28日の2日間にわたって放送したファンタジー・バラエティー。1年で最も星が美しく夜空を飾る季節、冬。星空をイメージした暖かい音のきらめきを中心に、星座や宇宙をテーマにしたサウンドエッセイやラジオドラマを放送した。朗読とプレゼンターは女優の中井貴恵さん。ピアノ演奏と音楽は作曲家の神山純一さん。

1. ニュース

世界各地域向けに18の言語で放送。10年度は、外国人向け17言語全てにおいてニュース枠を15分に拡大した(一部言語では土日のニュースは10

分)。ニュース解説コーナー「アングル」については、特に当日の主要ニュースとの関連を意識して制作に取り組んだ。日本と世界のニュースを、日本の視点から躍動感と共に提供した。

国内リスナー向けには、R2で『英語ニュース』『スペイン語ニュース』『中国語ニュース』『ハンゲルニュース』『ポルトガル語ニュース』を継続放送。

2. 定時番組

(1) 英語など17言語の主な定時番組

『ラジオジャパンフォーカス』(19分間)

月～金放送/日本語以外の17言語で日曜を除く毎日放送しているラジオ日本の主力番組である。国内の政治、経済、社会、文化に関わるさまざまな動きや、着目すべき科学技術、海外でも高く評価されている音楽などを幅広く紹介した。また、アジアを含めた世界の動きについても放送対象地域に対するネットワークを利用してタイムリーに伝えた。主なコーナーは以下の通り。

○「テクノロジー企画」

毎週月曜放送/日本が誇る最先端の科学技術を生かして開発された製品、革新的な製品、サービスを生み出す可能性を秘めた新しい素材、科学理論などを分かりやすく紹介するコーナー。

○「Beyond Borders」

毎週火曜放送/文字通り「境界」を越えて活躍する人々を紹介する企画。これまでの国境や国籍、人種などに加えて、性別や世代など、さまざまな「境界」に立ち向かう人々の姿にインタビューを中心に迫った。

○「ニッポンQ&A」

毎週水曜放送/日々の放送を聞いて感じたリスナーからの素朴な疑問、手紙やメールでラジオ日本に寄せられた質問に、外国の人々にも分かるように答えるコーナーとして好評を博した。

○「国際放送開始75周年記念番組」

10年は日本が国際放送を開始して75周年にあたる。そこで「あなたにとってラジオ日本とは？」をテーマに作文やイラスト作品を募集したところ、3月から7月中旬までに世界各地から1,300点以上の応募があった。自由な報道が許されていない国からは、「ラジオ日本」が情報源になっていることがつづられていたほか、日本語学習に役立てているとの声も目立った。イラストを含む100点余りの作品は、17言語に翻訳したメッセージと共に特設ウェブページに掲載した。

8月の特別番組で、優秀作品を送ってくれたタ

ンザニア、イラク、インドネシアのリスナー計3人を特別リポーターとして日本に招くことを発表。彼らは11月に来日し、それぞれが関心を持つ日本の「100円ショップ」や「小学校」「大学の漫画家養成学科」について取材した。そして、この取材の結果を12月に4本シリーズ『リスナーの日本滞在記』として放送した。

○「シリーズ 戦争と人間」

毎年夏に放送する終戦記念番組として、10年度は「戦争と人間」と銘打ったシリーズを5本放送した。国際放送として、より普遍的に戦争について掘り下げるため、アメリカの対イラク戦争など、現在も続く戦争も取り上げて放送した。

○「日本料理を作りましょう」

夏と冬の年2回、実験的な特別番組としてラジオによる料理番組を制作した。「外国の聴取者が実際に作り、味わうことができる」ことをコンセプトにメニューを選び、調理の際の音声を魅力的な効果音として、丁寧な解説とともに、日本の代表的な家庭料理とその背景にある日本の食文化を紹介し、聴取者の好評を博した。

○「日本語で歌いましょう」

第1土曜／日本の最新ポップスから毎月の課題曲を選び、ラジオ日本の各国語放送のアナウンサーが交代で生徒役になり、日本語で歌うことに挑戦した。歌唱指導は、杉江康祥さん、小川恵生さんが交代で担当。

○「ミュージックカフェ」

第2・3土曜／日本の四季や折々の行事を音楽とともに紹介するコーナー。

○「日本の響き」

第4土曜／「箏」「尺八」「三味線」など、毎月1つの和楽器に注目し、その歴史と特徴を解説した。また、楽器の特徴がよく分かる曲を選曲して紹介した。

『リスナーとともに』

毎週日曜（15分間、20分間、あるいは30分間）／各言語によるディスクジョッキー番組。リスナーの手紙やリクエスト曲を紹介したほか、放送対象地域ごとに、独自レポートを放送した。「共生の村・パレスチナ人元村長インタビュー（アラビア語）」「看護師国家試験合格（インドネシア語）」など。

『Listening Library Special』（19分間）

第5日曜放送／年4回／効果音や音楽をふんだんに織り交ぜ、英語に翻訳された日本を代表する4つの短編文学作品を朗読で紹介した。芥川龍之介「蜘蛛の糸」（5月）、宮沢賢治「オツベルと

象」（8月）、太宰治「桜桃」（10月）、森鷗外「高瀬舟」（1月）

3. 主な特集・特別番組（テレビ、ラジオ）

4月『SAMURAI SPIRIT 相撲』（テレビ：英語）

『スマトラ沖でM7.8の地震』

（テレビ：英語、日本語字幕ニュース、ラジオ：日本語R1スルー）

『国会中継・党首討論』

（テレビ：日本語総合スルー、ラジオ：日本語R1時差）

『栗原はるみ 和食の心で世界をつなげ！』

（テレビ：英語）

『ワイルドライフ（1）沖縄・やんばる 幻のトゲネズミ発見』（テレビ：英語）

『ワイルドライフ（2）密林に飛行生物の謎を探る ボルネオ』（テレビ：英語）

5月『ワイルドライフ（3）幻の鳥 炎の舞に迫る ニューギニア島』（テレビ：英語）

『美瑛の丘 風景の物語』（テレビ：英語）

『NEWSLINE タイの大規模デモ・軍の突入・デモ解除』

（テレビ：英語）

『うま味発見百年！化学者・池田菊苗』

（テレビ：英語）

『キタキツネ大家族物語』（テレビ：英語）

『総理記者会見 普天間問題』

（テレビ：英語NEWSLINE内／日本語総合スルー、ラジオ：日本語R1スルー）

6月『特設NEWSLINE「鳩山首相辞意表明」関連』（テレビ：英語）

『ニュース 民主党代表選 首相指名選挙、菅新首相会見』（テレビ：日本語総合スルー）

『ニュース 菅内閣閣僚名簿発表』（テレビ：日本語総合スルー）

『菅首相記者会見』（テレビ：日本語総合スルー）

『インド洋でM7.6の地震』（テレビ：英語）

『9党党首に聞く』（テレビ：日本語総合スルー）

『参院選公示関連ニュース』（テレビ：日本語総合スルー、ラジオ：日本語R1スルー）

『参院選特集 “政権交代”・消費税 争点を問う』（テレビ：日本語総合スルー）

『参院選特集 9党激論 消費税・普天間問題』（テレビ：日本語総合スルー）

『沖縄全戦没者追悼式』（テレビ：日本語総

- 合スルー，ラジオ：日本語R1スルー)
『在外投票のおしらせ』（テレビ・ラジオ：日本語）
『ラジオ日本75年特集番組』（ラジオ：多言語）
- 7月『参院選特集 参院代表に問う』（テレビ：日本語総合スルー）
『参院選特集 決戦まで一週間 党首討論』（テレビ：日本語総合スルー）
『NEWSLINE Upper House Election 2010』（テレビ：英語）
『参院選2010開票速報』（テレビ：日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
『2010参院選別島ドキュメント』（テレビ：日本語総合スルー）
『討論スペシャル 有権者の声にどうこたえる』（テレビ：日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
『菅首相記者会見』（テレビ：日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
- 8月『平成22年広島平和記念式典』（テレビ：英語，日本語総合スルー，ラジオ：日本語，英語）
『平成22年長崎平和祈念式典』（テレビ：英語，日本語総合スルー，ラジオ：日本語，英語）
『菅首相記者会見』（テレビ：日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
『全国戦没者追悼式』（テレビ：日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
『NEVER TO BE FORGOTTEN』（テレビ：英語）
○ヒロシマからの伝言
○ヒバクシャ世界の終りに
○渡辺謙アメリカに行く 星条旗の下に生きたヒバクシャたち ほか
『シリーズ 戦争と人間』（ラジオ：多言語）
『Green Style Japan』（テレビ：英語）
『ALTERNA JPN』（テレビ：英語）
『Supreme Cuisine』（テレビ：英語）
『ラジオ日本75年特集番組』（ラジオ：多言語）
『NEWSLINE・カーター元米大統領北朝鮮訪問』（テレビ：英語）
- 9月『民主党代表選挙共同記者会見』（テレビ：日本語総合スルー，ラジオ：R1日本語スルー）
『民主党代表候補公開討論会』（テレビ：日本語総合スルー，ラジオ：R1日本語スルー）
『NEWSLINE・民主党代表選関連』（テレビ：英語）
『特設ニュース「閣僚人事」』（テレビ：日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
『NEWSLINE・アフガンで邦人人質解放』（テレビ：英語）
『NEWSLINE・中国漁船船長釈放』（テレビ：英語）
『Cutting Edge AV for Education』（テレビ：英語）
- 10月『国会中継 所信表明演説』（テレビ：日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
『Japanophiles』（テレビ：英語）
『NEWSLINE・COP10名古屋会議関連』（テレビ：英語）
『NEWSLINE・チリ鉱山救出』（テレビ：英語）
『特設ニュース～チリ鉱山救出』（テレビ：日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー）
『融合する放送とインターネット』（テレビ：英語）
『Hometown Stories』（テレビ：英語）
○金とく 雪の立山 巨樹の森
○ワンダフル東北 命の一滴いただいて～木と対話する職人たちの半年
○ふるさと発スペシャル 島で生きる～瀬戸内海六島の四季
○プライムH 四季 苫小牧の森
- 11月『Hometown Stories』（テレビ：英語）
○しこく8 百年先に伝える“究極の青” 藍染師・矢野藍秀の挑戦
○九州沖縄スペシャル 阿蘇 灼熱の大地
『NEWSLINE・APEC横浜会議関連』（テレビ：英語）
『プロ野球日本シリーズ』（ラジオ：R1スルー）
- 12月『DYNAMIC INDIA』（テレビ：英語）
『平城遷都1300年記念 正倉院発シルクロード音楽の旅』（テレビ：英語）
『アフリカの年50年』（ラジオ：多言語）
『ラジオ日本75年特集番組』（ラジオ：多言語）
『第61回NHK紅白歌合戦』（テレビ：日本語

総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー)

『VIEWERS' CHOICE 2010』(テレビ：英語)

1月『VIEWERS' CHOICE 2010』(テレビ：英語)

『星空のファンタジー』(ラジオ：日本語)

『総理記者会見』(テレビ：日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー)

『ドラマ その街のこども』(テレビ：英語)

『Documentaries of Asia』(テレビ：英語)

○スニールの物語～私は生きる

○失われた故郷

『ファイティングスピリット ムエタイ』(テレビ：英語)

『ニュース 小沢氏強制起訴』(テレビ：日本語総合スルー)

『国会中継政府演説』(テレビ：日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー)

2月『NEWSLINE・中東・エジプト民主化運動関連』(テレビ：英語)

『ニュース 大相撲八百長疑惑・相撲協会が会見』(テレビ：日本語総合スルー)

『Hometown Stories』(テレビ：英語)

○炎の神が踊る夜～京都・白州正子が愛した火祭り

○ワンダフル東北 山の神さま来ました～山形県西川町大井沢

○九州沖縄スペシャル 峰入～大分・国東千年の祈り

○ふるさと発スペシャル 神楽烈々 舞と格闘する若者たち

『特設ニュース ニューゼaland地震関連』(テレビ：日本語総合スルー)

『国会中継党首討論』(テレビ：日本語総合スルー)

3月『BROADCASTERS' EYE』(テレビ：英語)

○笑ってさよなら～四畳半下請け工場の日々

『東日本大震災M9.0，大津波警報』

『NEWSLINE特設』『NHKスペシャル』など震災関連特別編成(テレビ：英語，日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー)

『福島第1原発事故関連』(テレビ：英語，日本語総合スルー，ラジオ：日本語R1スルー)

Ⅲ. インターネット展開

1. 概況

国際放送番組のインターネット配信は、「放送法第9条第2項第2号業務の基準」で、外国語による外国人向け情報の提供を「必要に応じ、積極的に実施する」こととしており、00年度からラジオ国際放送関連サービスを実施してきた。02年度から実施しているテレビ国際放送関連サービスにおいても、これまでの放送後の項目ニュースを配信するなどに加え、放送と同時のインターネット配信を放送法第9条第2項第5号に基づく業務として09年2月から実施した。

(1) テレビ関連サービス

①外国人向けテレビ国際放送番組は、ニュースを放送と同時にインターネットで配信するとともに、放送後に項目ニュースを配信している。ニュース以外の番組は、番組に含まれる著作権などのクリア条件に応じ、放送と同時あるいは、放送と同時および放送後に配信する。ただし、条件の難易度などに応じて、配信をしない番組、配信エリアを外国のみに限定する番組もある。

②外国人向けテレビ国際放送番組のインターネット配信を行うにあたっては、

- ・当該番組が、外国人向けテレビ国際放送のために制作した番組(英語番組)であるか、国内放送のために制作した日本語番組を英語化したもの(英語化国内番組)であるか
- ・配信が、国内向けであるか、海外向けであるかによって「仕分け」をし、権利者の許諾を得ることが著しく困難であるか、可能であるとしても著しく経費(追加支払い額)がかかるものについては、NHKとして当面実施しないこととしている。

③国際放送関係のインターネットサービス(外国人向け情報の提供)の実施経費は、既放送番組などの配信と放送と同時の配信を合わせて、10年度予算で6.2億円(テレビ国際放送関係が3.2億円，ラジオ国際放送関係が2.9億円)を計上した。

④09年2月からの放送とほぼ同時の再送信で提供しているテレビ国際放送の番組は、09年度中に5%程度向上し、10年度では、放送波全体の65%程度であった。

⑤10年4月～11年3月のページビューは9,154万、1日平均25万程度となった。

⑥09年6月から実施している国内向けの高画質

(配信レート：512kbps) 同時再送信は、09年10月からはJOOST〔ジュースト〕社にかわりFivecool〔ファイブクール〕社と技術提携して引き続き実施し、10年1月時点で、月間2,000ページビュー、4,500程度のユニークユーザー（複数回訪問を除く実人数）を獲得した。東日本大震災に際しては、国内限定を解除し、全世界向けに公開している。

⑦09年1月に開設した、世界最大の動画配信ポータルサイト「YouTube」の公式ホームページ「NHKワールドチャンネル」では、「NHKワールドTV」の放送済み番組の30秒短縮版およびPRスポットを掲載し、さまざまな番組内容を紹介している。10年3月時点で動画再生回数はおよそ40万回、登録ユーザー数は3,000であった。

(2) ラジオ関連サービス

①00年2月にニュースと情報番組で、ラジオ国際放送とはほぼ同時のライブストリーミングを開始。9月からはオンデマンドでの提供を始め、いつでも聴取可能となった。現在ニュースが18言語、情報番組は日本語を除く17言語で提供している。

②09年度前期、ライブストリーミングで提供しているラジオ国際放送のニュース・番組は、英語が59分、日本語が1時間4分、その他16言語が6時間54分であった。09年4～12月までの1日平均の利用回数は、ライブストリーミング3,400回弱、オンデマンドは5万9,000回弱であった。

③09年度前期、ライブストリーミングやオンデマンドで提供しているラジオ国際放送の番組は、以下のとおりである。

(英語)

『World Interactive』『Japanese Lesson』

『What's up Japan』『Listening Library』

(英語を除く17の外国語)

『ラジオジャパンフォーカス』

『リスナーとともに』

(日本語)

『海外安全情報』『地球ラジオ』

(3) 文字・動画サービスなど

①「NHKワールド・オンライン」では、02年4月に、テレビ国際放送の英語ニュースの提供を動画付きで開始。02年度中には、ロシア語、スペイン語、フランス語、中国語、アラビア語、ハンゲル、ポルトガル語によるニュースの文字情報の提供も開始。06年4月から中国語、08年4月からポルトガル語で動画付きニュースの提供を始めた。

②06年11月からNHK読み上げ版携帯サイトに英語ニュースの配信を開始した。12月にはスペイン

語とポルトガル語、さらに、07年2月には中国語とハンゲルを加えた5言語で配信サービスを行っている（同じコンテンツをNHKグローバルネットワークが実施しているコンテンツ販売に提供）。また、07年3月からは、ポッドキャストによる外国語ニュースの配信を日本語を除く17言語で実施。09年度10月からは、NHKワールドプレミアムでの『海外安全情報』放送再開により、放送後の番組掲載も開始した。

③10年2月から、テレビ国際放送番組のインターネットでの同時再送信窓口の1つとして、独自開発の専用アプリケーション（無料）を通じ、Apple社のスマートフォン iPhone（アイフォン）および iPod Touch（アイポッドタッチ）での配信開始。

(4) 東日本大震災対応

①震災発生時から、公開システムの安定稼働の維持に努めるとともに、NHKワールドホームページを軸に、インターネットを通じたテレビ視聴で震災関連情報をユーザーに届けた。

「NHKワールドTV」インターネット同時再送信は、震災発生直後、休止時間帯であったが、即座にライブ配信に入り、震災第1報を伝える特設『NEWSLINE』から3月25日の震災対応特別編成期間中に事故なく100%の配信を実施した。アクセスログが計測できないほど、世界中から大量のアクセスがあり、震災の深刻度合いが明らかになるにつれ、過去に経験の無いレベルのトラフィック（＝データ転送量）とその長期化が予想された。そのため、早いタイミングから負荷分散について検討し、まず3月12日に「Livestation」への配信開始（直後にアクセスが集中したため、いったんアクセスが不可能になった）、3月13日に「USTREAM」、3月14日に「NICO NICO LIVE」といった外部動画配信ポータルを利用した配信を実施した。さらに従来、国内限定であった512kbpsの高画質ストリームを3月12日から段階的に世界向けに開放した。

ラジオ日本関連のインターネットサービスでは、同時再送信（ライブストリーミング）をラジオ第1スルーとし、また、9言語で実施している放送後のニュース原稿公開を事態の推移に合わせて随時行った。また、これらのライブ配信維持のため、国際放送局編成広報部広報・デジタルコンテンツグループのインターネット担当者が泊まり体制を実施した。

3月11日（金）

○187万ページビュー（通常のおよそ8.5倍）

14時46分直後：「NHKワールドTV」同時再送信開始。ラジオ日本ライブストリーミングのラジオ第1スルーを実施。

20時：国際局独自契約の海外キャッシュサーバー網（NTTコミュニケーションズ）のデータ転送量が通常のおよそ100倍に達し、この傾向が長期にわたる可能性があったことから、システムの安定運用についての依頼を行った。また、この日から、国際放送局内で24時間体制でのシステム監視を開始した。

3月12日（土）

○176万ページビュー（通常のおよそ8倍）

5時：海外ニュースポータル「Livestation」への配信開始

11時：国内向け512kbpsストリームをアメリカ、イギリス、香港、シンガポール、オランダ、フランスに開放（20時：2万1,000ビデオビュー／9,000ユニークユーザー）

22時：国内向け512kbps配信（3万2,000ビデオビュー／1,800ユニークユーザー）

3月13日（日）○81万ページビュー（海外ポータル配信開始による負荷分散効果）

未明：「USTREAM」配信開始

11時：「Livestation」サーバー復帰。海外のみで配信

18時：「USTREAM」瞬間接続ピーク視聴者4,000人突破

22時：「USTREAM」『NHKスペシャル』同時通訳放送中、瞬間接続ピーク視聴者6,000人突破

3月14日（月）○96万ページビュー

1時：NHK WORLDトップページを災害時情報提供バージョンに変更

19時30分：「ニコニコ生動画」配信開始。

3月15日（火）○106万ページビュー

3時：「ニコニコ生動画」瞬間接続ピーク視聴者3万人突破

12時30分：「USTREAM」瞬間接続ピーク視聴者1万5,000人突破

13時30分：高画質512kbps全世界開放

午後：「Livestation」1万6,000ユニークユーザー記録

3月16日（水）○101万ページビュー

※震災発生以後、「NHKワールドTV」のiPhone向け同時再送信アプリケーションのダウンロード数が急激に増加。この日のアプリダウンロードが6万3,000に達した。また、日本での無料ニュース部門1位、アメリカでは注目アプリの

筆頭に上げられており、無料ニュース部門でCNNに続き2位。累計62万ダウンロード。

3月17日（木）○92万ページビュー

未明：海外向け高画質配信6万ユニークユーザー、最高同時接続6,000を記録

3月25日（金）○32万ページビュー

24時：USTREAM、NICO NICO LIVEへの配信を終了 ※泊まり勤務体制解除

3月26日（土）○37万ページビュー

※トップページを通常体制に戻す

まとめ

■3月11日から25日までのページビューはおよそ1,200万。2週間で通常の1.5か月分。

■3月11日から25日までの各配信先の視聴者（ユニークユーザー）数を合計すると延べ540万人余りとなった。

■iPhone向けアプリケーションのダウンロード数は、震災前のおよそ45万から倍の90万に到達。

■3月11日から25日までの間、ラジオ第1スルーとした、ラジオ日本ライブストリーミングの聴取者（ユニークユーザー）数はおよそ57万人。

配信	期間	視聴者数	備考
PC（低画質）	全期間	2,275,554	海外99%／日本1%
PC（高画質）	～3/14国内のみ	335,645	海外72%／日本28%
iPhone（国内）	全期間	275,128	
iPhone（国外）	全期間	548,615	アクセス数5,486,150の1/10と算定
Livestation	3/12～14, 19～25	62,750	
USTREAM	3/12～25	986,786	アクセス数2,960,358の1/3と算定
NICO NICO LIVE	3/14～25	922,579	海外69%／日本31%
合計	3/11～25	5,407,057	

広報・反響

I. 広報

09年2月に外国人向け英語放送に特化した「NHKワールドTV」の認知度向上に向けて、放送上だけではなく、インターネット、紙媒体を立体的に組み合わせた広報活動を行った。

(1) PR

○スポット

編成枠4時間×6ローテーション化に伴い、3種類の基本スポットを合計100本程度制作し、あらかじめ定時スポットとして編成している。30秒

スポットとして、その日の放送予定を告知する『Choice of the Day』、30分後、60分後の放送予定を告知する『Coming UP』、1分スポットで当該枠の明日の番組を告知する『This time tomorrow』そしてホームページ案内『Web PR』を組み合わせて、特集番組のスポットを随時加え、バリエーションとした。また、外部の女性キャスターを起用し、90秒で週末の3つの番組を紹介する『Choice of the week』を4月から放送した。

○チャンネルガイド誌出稿

香港のケーブルテレビガイド誌にも09年10月以来、継続的に出稿を行った。

○新聞広告

以下の日付で、番組PRを中心に広告出稿を行った。

- ・4.16 International Herald Tribune
- ・5.24 Financial Times
- ・6.25 Financial Times/Wall Street Journal
- ・10.1 Financial Times
- ・10.29 Wall Street Journal
- ・1.7 Financial Times
- ・1.27 Wall Street Journal
- ・2.14 International Herald Tribune
- ・6.1 International Herald Tribune
Financial Times/Wall Street Journal

※6月分は東日本大震災発生前に、3月末の新年度『NEWSLINE』のPR用に出稿を検討していたものが日程延伸したもの。

○バナー広告

- ・7.7~13 WSJ.com
- ・7.9~11 FT.com
- ※上記は参議院選挙特番PRのため
- ・7.1~31 CNNgo.com
- ※東京旅行ガイドサイト

(2) イベント

○フランス・カンヌMIPへの継続的な出展

10年度から継続的に出展を行っている世界最大のテレビ番組見本市MIPに、4月12日から15日のMIPTV2010、10月4日から7日のMIPCOM2010でそれぞれNHKブースの一角をNHKワールドコーナーとし、受信公開とインターネット配信の展示を実施。商談の場とした。特に、MIPCOMから受信公開をHD化し、ヨーロッパでのHD受信の促進にはずみをつけた。

○新東京国際空港（成田空港）での受信公開

10年12月25日から実施している成田空港の制限区域内にあるモニター10か所で、「NHKワールドTV」の受信公開を継続した。

○東京国際空港（羽田空港）国際線ターミナルへの看板広告出稿

新たに拡充された国際線ターミナルの1階、搭乗バス乗り場に2m×5mの看板を確保、「NHKワールドTV」のイメージ広告を出稿した。

○その他、紙媒体など

・09年度に引き続き、雑誌「海外赴任リロケーションガイド」「帰国ガイド 到着から帰国まで2011年度版」に広告出稿した。

・国内の外国語学習者を対象に、NHK語学講座の7言語のテキストに広告出稿した。

(3) モニター

年間にモニター募集を前期と後期の2回実施。ワールドTV上でのスポットとホームページを連動させて周知を行った。10年度の後半期にはテレビモニターは98人体制となった。

II. 反響

(1) 反響の周知と活用

○投書数

「NHKワールド ラジオ日本」への10年度の郵送・Eメールによる投書数は4万748件で、09年度と比べて、1万6,098件の増加となった。このうち、郵送による投書数は1万1,829件で09年度より227件減少し、一方、Eメールによる投書数が2万8,919件で、これが09年に比べて1万6,325件の増加となった。

「NHKワールドTV」への10年度のEメールでの投書数は7,919件となり、09年度と比べて2,292件の増加であった。

○反響の活用

テレビとラジオへの反響は、週1回「反響メモ」としてまとめ、イントラ上から閲覧できるようにしている。また、「NHKワールド ラジオ日本投書概況」「ラジオ日本モニター報告」と「NHKワールドTV海外番組モニター報告&反響」を月1回まとめている。これらは、国際放送局の各番組担当者にフィードバックし、放送の質のさらなる向上に役立てるとともに、考査室のまとめる国際放送考査資料としても利用されている。

○NHKワールドカレンダー・フォトコンテスト

国際放送局では、広報活動の一環として毎年NHKワールドカレンダーを制作している。主に海外の放送局、大使館、日系人協会、日本人学校などに配布し、NHKワールドを世界に広くPRしている。10年度からはテーマを廃止し、全国845人の応募者から3,191点の応募があった。写真家・

浅井慎平さんを委員長に審査を行い、金賞、銀賞、優秀作品賞、佳作、努力賞の合計28点が選ばれた。これらの写真は、カレンダー、卓上カレンダー、ベリカードなどに使用された。

(2) 見学対応

『NEWSLINE』専用のスタジオCU777を中心とした国際放送局への見学希望に対して、国際広報が対応した。主に日本人を中心とした見学者は、11年3月末でおよそ800人となり、09年度と同程度であった。

(3) 東日本大震災への対応

国際放送局では、東日本大震災についてのニュースをNHKワールドで、テレビ、ラジオ、インターネットを通じて地震発生直後から海外に広く伝えた。これらの放送については、世界各国から多くの反響が寄せられた。「NHKワールドTV」に寄せられた震災関連の反響は、3月12日～月末までの間に、1,597件となった。(外国語の反響：1,508件、日本語の反響：89件)。主な反響内容は、お悔やみ・励まし・支援の申し出(613件)、NHKの報道へのコメントほか(477件)、原子力発電所の問題について(439件)、安否確認(68件)などだった。また、英語副音声が付加されていない総合テレビのニュース時間帯に、「NHKワールドTV」の英語音声副音声で放送し、国内在住の外国人への情報提供のための緊急措置として、全国のケーブルテレビ局向けに、3月15日から「NHKワールドTV」の番組を提供した。さらに、教育テレビ、ラジオ第2などでもポルトガル語や中国語など英語以外の言語で情報を伝えるなど、日本に住む外国人向けのサービスも行った。

「NHKワールドTV」のモニターからも多数の意見が寄せられた。具体的には、“気象庁の記者会見から始まり、企業の事務所や駅、市街地などの各地の地震発生時の映像が紹介され、災害の規模の大きさがよく分かった”、“CNNやBBCなど他のメディアが「NHKワールドTV」の映像を使って伝えているなど、「NHKワールドTV」は最も優れた報道をしている”、“災害発生後に即座に行動し、流動的な出来事を生放送で豊富な映像で伝えていることは称賛に値する”（『NEWSLINE』）など、初動の迅速な報道を高く評価する意見が寄せられた。また、福島第一原子力発電所の事故については、“視聴者の不安をおおるような報道はせずに、専門家の見方も含めて冷静に事実を伝えていた”、“原子力発電の技術的なデータを専門的な見地から提供していて、事故の危険性も明らかにしていた”

（『NEWSLINE』）など、客観的で冷静な報道姿勢に高い評価が寄せられた。また、被災者の現状を宮城県南三陸町の避難所からの現地レポートなどで詳細に紹介し、支援の動きなどを幅広く伝えたことも好感を持って受け止められた。

技術・施設

I. テレビの送受信

「NHKワールドTV」は、英語による「外国人向けテレビ国際放送」で、09年2月に専用スタジオを設け24時間毎正時ニュースを放送している。09年12月には、標準画質の放送に加え、ハイビジョンによる放送も開始した。放送はノンスクランブル（無料）で、インテルサット社の3つのCバンド衛星を使い、ほぼ全世界をカバーしているが、受信には直径2.5メートル以上のパラボラアンテナが必要なため、NHKでは、小型のアンテナで受信できる放送衛星（Kuバンド）や地域のCATVなどを通じてより簡便に視聴できるよう受信環境の整備を進めている。10年度末には、17機の放送衛星でおよそ120か国のエリアをカバーし、約1億3,655万世帯で視聴が可能となった。（図1）

「NHKワールド プレミアム」（テレビ番組配信）は、「NHKワールドTV」と同じ3つのCバンド衛星で、海外のCATVや衛星放送局などの放送事業者がNHKの番組を有償で配信し、各事業者が放送する邦人向けのサービスである。

「テレビジャパン」は、北米NCMA社（NHK Cosmomedia America, Inc. ニューヨーク）と欧州NCME社（NHK Cosmomedia (Europe) Ltd. ロンドン）2社が、放送衛星（Kuバンド）を使って91年から実施している有料の邦人向け放送である。NHKや民放の番組にスクランブルをかけて放送している。

NHKは、「NHKワールド プレミアム」と「テレビジャパン」を使って、1日およそ5時間、ノンスクランブル（無料）の「邦人向けテレビ国際放送」を実施している。

II. ラジオの送信

短波による国際放送「NHKワールド・ラジオ日本」は、八俣送信所と海外中継所からの送信を実施した。効果的・効率的な送信体制への移行を図る目的で、10年3月28日から海外中継体制を変更。短波の送信体制の見直し・強化とともに、中

波やFM波、衛星ラジオなどの新たなメディアを使った送信を拡充し、放送対象地域のメディア事情に適した、一層効率的で効果的な送信体制への移行を引き続き進めた。短波については八俣送信所と17の海外中継局からの送信体制とした。さらに中波、FM波による新メディア展開を6つの国と地域で実施した。(図2)

○八俣送信所

送信機6台(300kW:5台,100kW:1台)、アンテナ18式(カーテン型:15式,水平LP型:3式)25方向で送信。「ラジオ日本」を1日69時間55分送信した。さらに、海外の放送機関と相互に送信施設を提供し合い相互の番組の中継を行う「交換中継」として、「ラジオ・カナダ・インターナショナル(RCI)」を2時間送信し、合計で1日71時間55分送信した。

(1) カナダ中継放送

86年10月に、サックビル中継局の250kW送信機を借用し放送を開始。88年からはRCIとの交換中継とした。93年に借用中継を再開。10年度は、中米向けに2時間の交換中継のほか、北米東部、北米西部、中米、南米向けに合わせて5時間30分の借用中継を実施。合わせて1日7時間30分の送信とした。

(2) イギリス中継放送

92年7月から、スケルトン中継局などの500kW送信機などを借用し放送。10年度は、欧州向けに1日30分の送信を実施。

(3) シンガポール中継放送

96年4月に、クランジ中継局の250kW送信機を使用し借用中継を開始。10年度は、東南アジア、南西アジア向けに1日8時間15分の送信を実施。

(4) ダバヤ中継放送

03年4月から、ダバヤ中継局(アラブ首長国連邦)の500kW送信機を借用し放送を実施。10年度は、中東・北アフリカ向けに、1日2時間送信。

(5) ボネール中継放送

03年10月から、ボネール中継局(カリブ海・オランダ領アンティル諸島)の250kW送信機を借用し放送を実施。10年度は、南米、中米向けに、合わせて1日5時間30分送信した。

(6) フランス中継放送

08年3月30日にイスーダン中継局の500kW送信機を借用し放送を開始。10年度は、アフリカ西部、中部、南部、中東・北アフリカ向けに1日8時間送信を実施。

(7) ドイツ中継放送

08年3月30日に、ヴェルタハタル中継局の500kW送信機などを借用し放送を開始。10年度は、欧州、中東・北アフリカ、アフリカ西部向けに1日3時間送信を実施。

(8) ウズベキスタン中継放送

09年3月29日に、ウズベキスタン中継局の100kW送信機を借用し放送を開始。10年度は、南西アジア向けに1日3時間15分送信を実施。

(9) アルメニア中継放送

09年3月29日に、アルメニア中継局の100kW送信機(短波)、1,000kW送信機(中波)を借用し放送を開始。10年度は、中東・北アフリカ向けに1日30分(短波)、30分(中波)送信を実施。

(10) モスクワ中継放送

09年3月29日に、モスクワ中継局の10kW中波送信機を借用し放送を開始。10年度は、モスクワ市および周辺地域向けに1日1時間送信を実施。

(11) インドネシア中継放送

09年3月29日に開始。10年度は、インドネシアの首都ジャカルタを含む主要35都市のFMラジオ局の放送時間を借用し放送を実施。送信時間は1日45分。

(12) ヨルダン川西岸中継放送

09年4月20日に、中東のヨルダン川西岸地区のFMラジオ局の放送時間を借用し放送を開始。10年度は、ラマラ、ジェニンの2都市で1日30分送信を実施。

(13) リトアニア中継放送

10年3月28日に、リトアニア中継局の100kW送信機を借用し放送を開始。欧州向けに1日30分送信を実施。

(14) マダガスカル中継放送

10年3月28日に、マダガスカル中継局の250kW送信機を借用し放送を開始。アフリカ東部、中部、西部向けに1日1時間45分送信を実施。

(15) チリ中継放送

10年3月28日に、チリ中継局の100kW送信機を借用し放送を開始。南米向けに1日1時間送信を実施。

(16) アフガニスタン中継放送

10年3月28日に、アフガニスタンのFMラジオ局の放送時間を借用し放送を開始。カブール、ヘラートの2都市で1日30分送信を実施。

(17) バングラデシュ中継放送

10年10月1日に、バングラデシュの国営FMラジオ局の放送時間借用し放送を開始。首都ダッカと主要6都市で1日45分送信を実施。

図1 「NHKワールドTV」等のカバーエリア（2011年3月末現在）

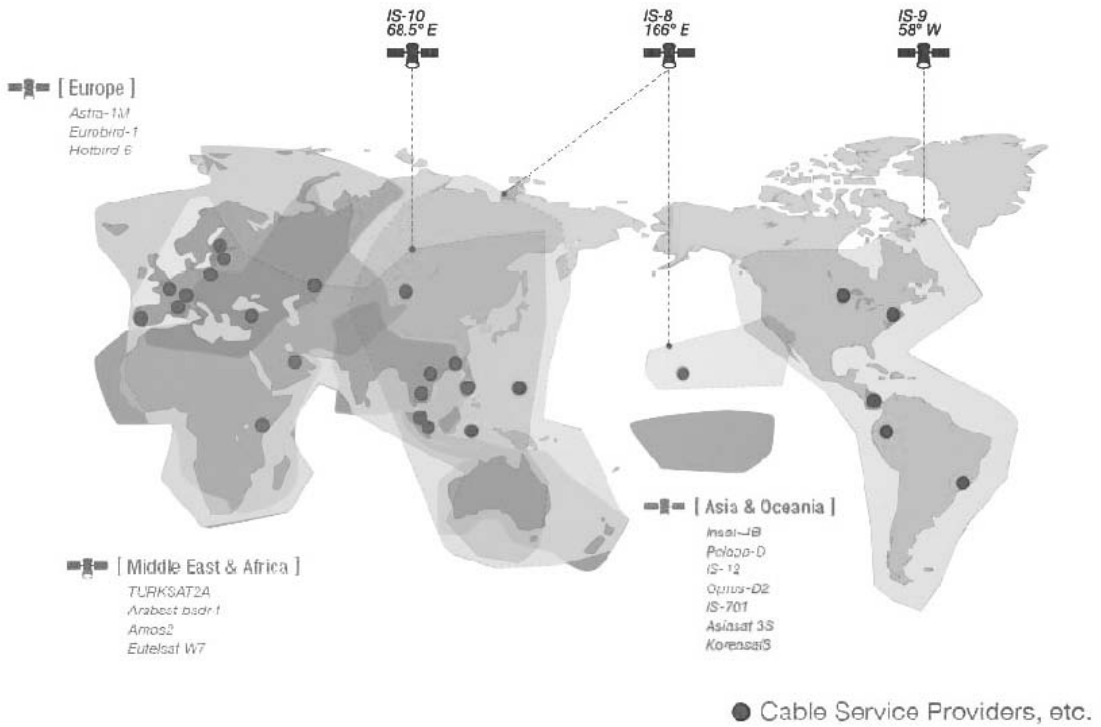


図2 「NHKワールドラジオ日本」の送信方向概念図（2011年3月末現在）

